

～学校だより～

つながるころ ちからをあわせ はじけるえがお しあわせいっぱい



つちはし



おとな ほんき 大人の本気

かわさきしりつつちはししょうがっこうこうちょう やまもと なお
川崎市立土橋小学校校長 山本 直

平成3年度、大学生活最後の年、中野区の桃園小学校というところで、特別支援学級の介助員という仕事をしました。まだ土曜日の授業がある時代で、日曜日と大学の授業のある日を除き、週4日から5日、勤務をしていました。この小学校の特別支援学級の主任の先生は地元で有名な方だったようです。後に教育長にもなられるのですが、とても厳しい方でした。しかし、その厳しい指導を求めて遠くから通う児童もいました。ある男の子は、渋谷区から毎日片道1時間半、歩いて通っていました。本来なら通学は認められない距離ですが、「登下校は保護者が毎日見つからないように、その子の後ろを歩いて見守ること」が条件で認められたそうです。毎日その子のお母さんは、朝早くに1時間半かけて学校まで隠れてついてきて、一度帰宅し、放課後また学校に来て、後ろをついて歩いて帰っていました。どうしてそこまでするのだろうと思っていましたが、お母さんの「本気」と「覚悟」のようなものを感じる毎日でした。

そのクラスでは、週に2回ほど、朝の運動という時間がありました。校庭のまわりを10分間走るのが、複数いる先生や介助員が子どもたちについて一緒に走っていました。私は、渋谷区から毎日通っている子の担当になりました。主任の先生からは、次のように指示が出ました。

「山本先生は大人だから、2周差をつけることができたなら勝ちにしよう。」

いざ走ってみると、その子はさすが毎日3時間も歩いているだけあって、とても体力がありました。しかも私が本気で走っているのを見ても、距離が遠いうちはなにやら手を抜いて走っているように見えて、近づいてくると急に全力で走り始めるのです。はじめの5分間で1週の差をつけて、残り1分、あともう少しというところで、その子は急に泣きそうになりながら全速力で走り続けます。すでに9分間全力で走っている私は、ぎりぎりまで追い詰めることはできても、最後は負けてしまいます。ある日、主任の先生に「いつも負けてしまってますみません」と謝ると、主任は「それでいいんだよ。先生が本気で走っているのをみて、彼は最後全力で走っているのだから。この1分間が大事なんだよ」と教えてくれました。

学校において、毎日多くの人の本気に会います。日々の授業では、先生が本気でよりよい授業を考え、児童も本気で考える姿を見させてくれます。生活においても、親も先生も本気で考え、心配しているからこそ、子どもたちは安心して過ごせるのだと思います。逆に、子どもたちが本気で頑張る姿に大人は感動し、また頑張ろうと勇気をもらえるのかもしれませんが。10月は運動会という大きな行事も控えています。学校目標「しあわせいっぱい」の通り、保護者も学校も地域も、みんなが本気で子どもたちの幸せを考える土橋小学校でありたいと思っています。後期もよろしくお願ひします。